

[資 料]

高等教育における持続可能な開発目標（SDGs）の意義
～広島文化学園の取り組みに焦点を当てて～

河野 喬¹・田中 義教¹・平岡 正史¹・山中 翔¹・多田 愉可¹
森木 吾郎¹・佐々本恵万¹・萱島 隆之¹・西川 勝利¹・山崎 貴広¹
谷廣 晃毅¹・田原 万葉¹・三奈木浩平¹・湧田 耕辰¹

**Strategies for Hiroshima Bunka Gakuen to Align
with Sustainable Development Goals in Higher Education**

Takashi KAWANO, Yoshinori TANAKA, Masashi HIRAOKA, Sho YAMANAKA, Yuka TADA,
Goro MORIKI, Ema SASAMOTO, Takayuki KAYASHIMA, Katsutoshi NISHIKAWA,
Takahiro YAMASAKI, Kouki TANIHIRO, Mayo TAHARA, Kohei MINAGI,
and Koshin WAKUDA

Abstract

This paper presents the findings of the Hiroshima Bunka Gakuen Sustainable Development Goals (SDGs) Research Project. Initially, it reviews prior research on SDGs and Education for Sustainable Development (ESD). Subsequently, we detail the efforts in education, research, and community collaboration undertaken by Hiroshima Bunka Gakuen. The paper culminates in a comparison between the activities at Hiroshima Bunka Gakuen and the objectives of the SDGs, from which we identify future challenges. In conclusion, we advocate for enhanced partnerships with diverse organizations to foster learner-centered SDG initiatives and emphasize the importance of more proactive information dissemination through social media and other channels.

Keywords:

Sustainable Development Goals (持続的な開発目標), *Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)*, *Theoria Cum Praxi (究理実践)*, *Higher Education Institutions (高等教育機関)*

¹ 広島文化学園 SDGs 検討プロジェクト委員（2023年12月28日現在）
（Members of Hiroshima Bunka Gakuen SDGs Research Project）

1. 序論

SDGs (Sustainable Development Goals) は、「持続可能な開発目標」と訳され、全世界の人々と地球の未来のために、国際社会が共に取り組むべき目標として、「2030アジェンダ」の中核として示されている。これらの目標は、貧困や飢餓の撲滅、健康や教育の充実、環境保護など、様々な課題を包摂していることから、すべての国で多様な参画主体によるパートナーシップが期待されている (国際連合広報センター, 2019)。

学校法人広島文化学園では、2021 (令和3) 年度に6つの重点課題 (10年構想, 短期大学将来構想, リカレント教育, SDGs, 人間健康学部改革, 看護学部改革) について、それぞれプロジェクトが立ち上げられ、うち一つとして「SDGs検討プロジェクト」が設置された。本資料は、その前提となるSDGsについての歴史的経緯, 学校教育との関連, 及び先行研究についてまとめたうえで、広島文化学園におけるSDGs活動の意義と進捗について報告するものである。

2. SDGsとミレニアム開発目標 (MDGs) との関係

(1) SDGs前史

SDGsは、2015年に国際連合により採択された全世界を対象とする17の目標, 169のターゲット, 232の指標からなる。こうした国際的な開発目標は、1987年のブルントラント委員会報告「我ら共々の未来 (Our Common Future)」で提唱されて以降、様々な観点から改訂を重ねてきた。特に、2000年採択のMDGs (Millennium Development Goals; ミレニアム開発目標) と2012年「持続可能な国際会議」 (以下, リオ+20) の二つの大きな流れを受けて成立したのがSDGsである (沖他, 2018)。

MDGsは、当時の世界情勢を受けて、貧困や飢餓, 病気, 教育不足の解決のために設定された8つの目標であり、いわば、開発途上国に焦点を当てた目標であった。しかし、達成度が国で異なる、

経済・環境に関わる目標数の不足等が課題とされた。そうした指摘に対して、「リオ+20」では、MDGsの課題を踏まえて、経済的, 社会的, 環境的側面の統合の概念を打ち出し、SDGsの採択と、それを2030アジェンダに統合することが決定された (沖他, 2018)。

結果として、SDGsでは、環境問題や経済格差, 平和・法の支配など、より幅広い課題がカバーされ、開発途上国だけでなく、先進国も含めた全ての国が対象とされている。併せて、目標やターゲットだけでなく、必要な資金の確保及び活用も議論され、国, 国際機関, 民間企業, 市民社会, 研究者等が関与するプロセスを経て採択されたものであることから、幅広い主体の参画によるパートナーシップが期待されている。

(2) SDGs三分類と「SDGsウォッシュ」への警鐘

SDGsの17の目標は、それぞれ達成度評価と国際比較のために具体的な指標が定められており、その性質毎に、経済的 (SDGs 8, 9, 10, 12), 社会的 (SDGs 1-5, 7, 11, 16), 環境的 (SDGs 6, 13-15) に分類されて用いられることが多い (表1)。

学校教育とSDGsについての先行研究を概観すると、学生・生徒にとって社会的および経済的SDGsが、環境的SDGsよりも注目されていることが指摘されている (Meschede, 2020)。また、教育機関が社会的及び経済的目標に取り組むことで、学生・生徒がその所属する教育機関に対するLoyalty (帰属意識) を高め、将来にわたって学び続けたいという意欲が向上するといった報告もなされている (Barta et al, 2023)。

国際的に様々なSDGs活動が報告される一方で、その多くがSDGsに存する肯定的な印象を利用した企業・団体による表面的なイメージアップ (cherry picking = いいところ取り) に過ぎないとの批判から、それを「SDGsウォッシュ」 (SDG-washing) と称し、消費者に対して警鐘を鳴らす意見がある (Heras - Saizarboritoria et al, 2022)。

表1 SDGs17の三分類と各目標及び指標

分類	目標	指標
経済的	8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	一人当たりの実質GDPの年間成長率, 労働者の平均時給・失業率(性別, 年齢, 職業, 障害者別), 就労, 就学及び職業訓練のいずれも行っていない15~24歳の若者の割合, 児童労働者の割合と数, 致命的な労働災害など
	10 各国内及び各国間の不平等を是正する	中位所得の半分未満で生活する人口の割合(年齢, 性別, 障害者別), 差別又は嫌がらせを個人的に感じたと報告した人口の割合, 国外の目的地への移住途中に死亡・行方不明になった人々の数, 送金額の割合に占める送金コストなど
	9 強靱(レジリエント)なインフラ構築, 包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	全季節利用可能な道路の2km圏内に住んでいる地方の人口の割合, 付加価値の単位当たりのCO2排出量, 100万人当たりの研究者(フルタイム相当), モバイルネットワークにアクセス可能な人口の割合など
	12 持続可能な生産消費形態を確保する	食料廃棄指数, 有害廃棄物の1人当たり発生量, 各国の再生利用率, 再生利用量, 持続可能性に関する報告書を発行する企業の数, 持続可能な開発のための教育が教育政策・カリキュラム・教師教育・学生の達成度評価に関して主流化されているレベルなど
社会的	1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	国際的な貧困ラインを下回って生活している人口の割合, 社会保障制度によって保護されている人口の割合(性別, 子供, 失業者, 年配者, 障害者, 妊婦, 新生児, 労働災害被害者, 貧困層, 脆弱層別), 貧困層のための公共社会支出など
	2 飢餓を終わらせ, 食料安全保障及び栄養改善を実現し, 持続可能な農業を促進する	栄養不足蔓延率, 5歳未満の子供の発育阻害の蔓延度, 15~49歳の女性における貧血の蔓延度, 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額, 小規模食料生産者の平均的な収入(性別, 先住民・非先住民の別)など
	3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し, 福祉を促進する	妊産婦死亡率, 5歳未満児死亡率, 「顧みられない熱帯病」に対して介入を必要としている人々の数, 自殺死亡率, 物質使用障害に対する治療介入, 自らの要望が満たされている出産可能年齢(15~49歳)にある女性の割合, 医療従事者の密度と分布など
	4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し, 生涯学習の機会を促進する	読解力, 算数について, 最低限の習熟度に達している子供や若者の割合, 順調に発育している満5歳未満の子供の割合, 学校教育や学校教育以外の教育に参加している若者又は成人の割合, ICTスキルを有する若者や成人の割合, 最低限の資格を有する教員の割合など
	5 ジェンダー平等を達成し, すべての女性及び女兒の能力強化を行う	性別に基づく平等と差別撤廃を促進, 実施及びモニターするための法律の枠組み, 性的関係, 避妊, リプロダクティブ・ヘルスケアについて, 自分で意思決定を行うことのできる15歳~49歳の女性の割合, 携帯電話を所有する個人の割合など
	7 すべての人々の, 安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	電気を受電可能な人口比率, 家屋の空気を汚さない燃料や技術に依存している人口比率, 最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率, クリーンなエネルギー研究及び開発等への支援に関する発展途上国に対する国際金融フローなど
	11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する	公共交通機関へ容易にアクセスできる人口の割合(性別, 年齢, 障害者別), 災害による死者数, 行方不明者数, 直接的負傷者数, 身体的又は性的ハラスメントの犠牲者の割合(性別, 年齢, 障害状況, 発生場所別), など
16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し, すべての人々に司法へのアクセスを提供し, あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	意図的な殺人行為による犠牲者の数, 夜間に自身の居住区域を一人で歩いても安全と感じる人口の割合, 18歳までに性的暴力を受けた18歳~29歳の若年女性及び男性の割合, 5歳以下の子供で, 行政機関に出生登録されたものの割合など	
環境的	6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	安全に管理された飲料水サービスを利用する人口の割合, 安全に管理された公衆衛生サービスを利用する人口の割合, 石けんや水のある手洗い場を利用する人口の割合, 水の利用率の経時変化, 水関連生態系範囲の経時変化など
	13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	災害による死者数, 行方不明者数, 直接的負傷者数, 国防災戦略に沿った地方レベルの防災戦略を採択し実行している地方政府の割合, 年間温室効果ガス総排出量, 地球市民教育及びSDGs教育が, 教育政策, カリキュラム等で主流化されているレベルなど
	14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し, 持続可能な形で利用する	沿岸富栄養化の指標, プラスチックごみの密度, 海洋酸性度(pH)の平均値, 生物学的に持続可能なレベルの水産資源の割合, 海洋技術分野に割り当てられた研究予算の割合, GDPに占める持続可能な漁業の割合など
	15 陸域生態系の保護, 回復, 持続可能な利用の推進, 持続可能な森林の経営, 砂漠化への対処, ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	土地全体に対する森林の割合, 土地全体のうち劣化した土地の割合, レッドリスト指数, 外来種に関する国内法を採択しており, 侵略的外来種の防除や制御に必要な資金等を確保している国の割合など

出典: 国際連合広報センター(2019)を基に筆者作成。

3. SDGsと学校教育との関係

(1) 高等学校までのSDGs

2016年12月に発表された中央教育審議会の答申

「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」には, 「持続可能な開発のための教育(ESD)は次期学習指導要領改訂の全体において

基盤となる理念である」と示されている。ESDは、2005年「国連・持続可能な開発のための教育の10年(Decade of Education for Sustainable Development)」から議論されてきたものであり(山中・河村, 2022), SDGs 4「質の高い教育をみんなに」と一体のものとして位置づけられている(UNESCO, 2021)。

小学校教育においては、教科教育のなかに組み込まれながら、校内美化や環境保全についての日々の学びのなかでの定着が図られている。中学校教育においては、各教科に加えて、「総合的な学習の時間」での取り組みや、ボランティア活動への参加が期待されている。そして、高等学校教育では、教科教育で更なる専門的な内容に触れつつも、「総合的な探究の時間」における課題解決型学習の推奨テーマとして扱われている(文部科学省国際統括官付・日本ユネスコ国内委員会, 2016)。つまり、高等学校までの公教育において、知識・理解に留まらない、様々な問題を「自分の問題」として行動する実践する力の育成がSDGs及びESDで求められている(角屋, 2012)。高等教育機関である大学及び短期大学におけるSDGs教育及び活動には、小学校、中学校、及び高等学校での学びを基に、さらに発展性のある内容を期待されていると解することができる。

(2) 高等教育におけるSDGs

大学及び短期大学といった高等教育機関とSDGsの関連については、シラバスや授業内容にSDGsを組み入れ、関連する問題について認識を高めるべく教育を行うといった方向性で取り組まれてきたことがわかる(Pacheco et al, 2022)。しかし、2020年2月からの新型コロナウイルス感染症の拡大によって、SDGsの教育分野での取り組みが、遠隔教育のためのデジタル化やインターネット環境の整備に引き寄せられてしまい、当初は意図されていた経済的、社会的SDGsの取り組みが変質してしまったとの指摘がある(Crawford, 2022)。特に、アクセシビリティ、ジェンダー平等といったSDGsを語る上で重要視される取り組

みは、低所得や社会的不利といった状況に置かれた学生ほど、影響を強く受けることから、高等教育機関による誠実で戦略的な活動が求められる(Chankseliani et al, 2020)。

4. 広島文化学園の取り組み

(1) 中期経営計画におけるSDGsの位置づけ

2020(令和2)年から2024(令和6)年度までの経営方針「中期経営計画Ⅳ」では、SDGsの推進を明記し、SDGs検討プロジェクトの設置と、その方針・施策が示されている。具体的には、①「17の目標」と「169のターゲット」から本学が取り組める項目、②ESD(持続可能な開発のための教育)の実践、③SDGsのカリキュラム(教養科目、専門科目)への反映、④SDGsに関わる研究の推進、⑤学内活動としてのSDGs活動の実施、⑥学外活動としてのSDGs活動の実施、⑦SDGsの取組のPR、⑧SDGs活動の実現に必要な学内体制等の8項目である。これを基に、2021年度には4回(10月12日、11月22日、12月22日、3月8日)、2022年度には6回(7月21日、9月8日、10月27日、12月26日、2月28日、3月28日)、2023年度には、12月15日現在で4回(6月29日、7月25日、8月30日、12月15日)の会議を開催し、全学(短期大学3学科、大学3学部4学科)のSDGs関連活動の集約と情報共有、課題の抽出と方策の検討が行われた。

(2) 広島文化学園SDGs行動指針

会議を基にSDGs行動指針として、次の文言が定められた。

表1 広島文化学園SDGs行動指針

広島文化学園は、建学の精神「究理実践」に基づき、「嚶鳴教育」「対話の教育」を教育理念として、学習者中心の教育と対人援助力の育成に取り組んでいます。広島文化学園は、地域社会や国際社会の発展に貢献できる有為

な人材の育成を通じて、SDGsの達成に向けて取り組むことにより、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に貢献します。

(3) 成果

SDGs検討プロジェクト会議における3カ年の活動成果は表2のとおりである。「教育としてのSDGs」、「学内外活動としてのSDGs」、「学内外に向けたSDGs活動のPR」の3つの区分のもと、委員が役割分担を行い、定期的な報告連絡のもとで展開した。

まず、教育（及び研究）としてのSDGs活動は、全学共通の教養教育としてのSDGs科目を設置し、各専門科目に関連するSDGsの目標ナンバーを付

すことで、カリキュラムとSDGsの間の関連について明確化を図った。また、教員の研究活動とSDGsの目標ナンバーを照合することで、経済的・社会的SDGs活動のさらなる展開に向けて、学内外との連携ないしパートナーシップの拡大に向けた情報発信の下地作りを行った。

次に、学内外活動としては、毎年、FD・SD研修における学び直しと教職員の意識改革に注力した。こうした学び直しを基に、地道に積み上げられてきた社会貢献活動の再評価が行われ、経済的・社会的SDGsとしての活動が、教職員と学生の協力のもとで続けられてきたことが確認された（表3）。また、環境的SDGsの組織的推進として、使用データに基づく資源活用の創意工夫が各キャ

表2 SDGs検討プロジェクトの成果

分類	2021（令和3）年度	2022（令和4）年度	2023（令和5）年度
教育としてのSDGs	(1) 全学における教育研究活動及び授業科目とSDGsとの関連を調査 (2) SDGs17の目標とカリキュラムの紐づけ作業 (3) SDGs17の目標と各教員の研究活動の紐づけ作業	(1) 全学共通教養教育としてのSDGs科目について検討（教学支援センター、全学教養教育推進委員会、全学教育課程委員会と連携） (2) 全学図書館におけるSDGs関連図書の配架と学生への推奨	(1) 全学共通の教養教育としてのSDGs科目の配置（〇〇からのSDGs、インクルーシブ社会論等） (2) 学習者中心の学び、ペーパーレス等を目的とする「ノートパソコン必携化」 (3) 全学図書館におけるSDGs関連図書の配架と学生への推奨
学内外活動としてのSDGs	(1) SDGs検討プロジェクト会議メンバー間でのSDGsについての情報収集と分析（国内外の政策動向、参考となる他大学の活動等） (2) 各学部学科におけるSDGs関連イベントについての情報収集	(1) 各学部学科におけるSDGs関連イベント・活動（清掃活動、各種産学官連携、チャリティー・社会貢献活動、高校生向けアイデアコンテスト等）の展開 (2) SD・FD研修による全教職員の意識改革 (3) 広島文化学園SDGs行動指針の制定	(1) SD・FD研修による教職員の意識改革と、アンケートによる浸透度調査 (2) 各学部学科におけるSDGs関連イベント・活動（清掃活動、各種産学官連携、チャリティー・社会貢献活動、高校生向けアイデアコンテスト等）の展開 (3) 使用データの可視化に基づく節電・節水・節紙の取り組み (4) 資源活用の創意工夫（全キャンパスでの紙等の資源分別・再利用フローの確立など）
学内外に向けたSDGs活動のPR	(1) 全学部学科における学内活動とSDGsとの関連を調査 (2) ホームページでの学外発信についての方策を調査（特設ページ、NEWS及びTOPICSの活用可能性等）	(1) 広島文化学園SDGs行動指針の発信 (2) ホームページNEWS及びTOPICSへのSDGs関連ロゴの掲示 (3) 特設ページの設置と各学部学科のSDGsに関する教育活動、社会貢献活動ピックアップを掲載	(1) SDGs特設ページの充実 (2) ホームページNEWS及びTOPICSへのSDGs関連ロゴ記載が標準化 (3) ホームページとインスタグラムの連携

出典：広島文化学園SDGs検討プロジェクト会議（2022）「SDGs検討プロジェクト中間報告」及び会議議事録を基に筆者作成。

ンパスにみられた。2023年9月8日に行われた「令和5年度夏季SD・FD研修会（第2部）」で行った教職員アンケートの集計結果を表4に示す。最も多かったのは、SDGs 8「働きがいも経済成長も」であり、頻出語は「学生」であった。

最後に、学内外に向けた活動のPRとしては、

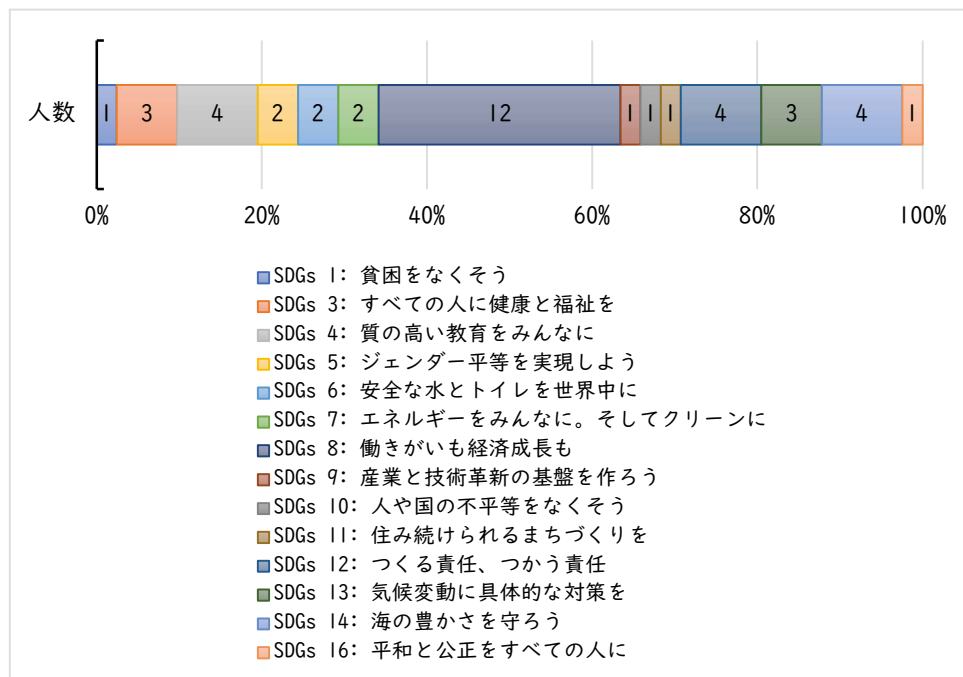
特設ホームページの設置と、全学部学科におけるSDGsに関連する教育研究、社会貢献活動のTOPICSとしての発信がおこなわれた（図1）。併せて、日々発信されるTOPICS記事とSDGs 1-17の関連づけとして、ロゴ記載が行われるようになった（図2）。ホームページと併せて、学生広

表3 広島文化学園におけるSDGs活動の実践例

分類	実践例
経済的SDGs	(1) 多様な入学者選抜方法と就学支援 (2) 包括連携協定に基づく活動（呉市、島根県、広島市安佐南区、府中町、広島市教育委員会、呉市商工会議所、中国労災病院、呉産業振興センター、広島市農業振興協議会、慈楽福祉会、広島県インクルーシブフットボール連盟、呉信用金庫、株式会社フレスタ、サンフレッチェ広島、内田洋行、もみじ銀行、呉市立呉高等学校、広島県立高陽東高等学校、広島翔洋高等学校、広島県瀬戸内高等学校、清水ヶ丘高等学校、広島県立熊野高等学校、広島県立安芸高等学校、進徳女子高等学校、山陽女学園高等部、呉港高等学校、広島市立広島みらい創生高等学校、広島県立可部高等学校）
社会的SDGs	(1) 本学各科目におけるESD教育 (2) 対人援助力を持ち備えた人材育成（スペシャルオリンピックス、はなまるキッズ、音楽療法おまつり等、各種ボランティア活動） (3) 地域の要請に応える人材育成（高齢者カフェ、認知症カフェ、オレンジリボン普及イベント、市民公開講座、健康教室、スポーツ教室等） (4) 地域連携・社会活動（呉地域オープンカレッジネットワーク会議、阿賀学園地域教育連携協議会アカデミア、認知症看護エキスパート養成プログラム、あかね祭、とうべえ祭り、一人暮らし高齢者へのお弁当配食サービス、チャリティーコンサート、定期演奏会、等多数）
環境的SDGs	(1) 各キャンパスのある地域での清掃活動 (2) 全キャンパスにおける節電・節水・節紙活動 (3) 全キャンパスにおける防災教育、避難訓練等

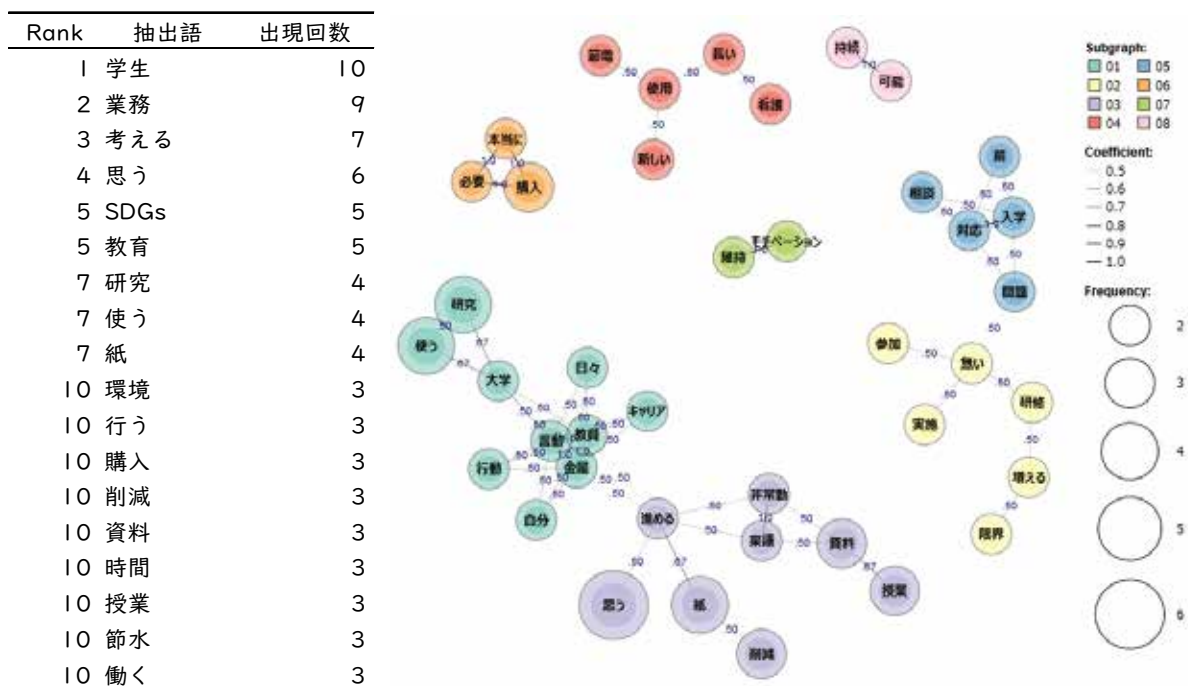
出典：広島文化学園ホームページを基に筆者作成。

表4-1 FD・SD研修アンケート「明日からできるSDGs」の結果



N=44, グラフ内の数字は人数。

表4-2 FD・SD研修アンケート「明日からできるSDGs」の抽出語の関連



N=44, 分析：KH_Coder Ver 3.Beta.07 (樋口, 2020) を使用, 共起関係は上位50を描画, 数値はJaccard係数。



図1 学内外発信の例 (ホームページTOPICS)

出典：広島文化学園ホームページ「Topics」



図2 学内外発信の例 (イベント・活動毎にSDGsロゴを記載)
出典：広島文化学園ホームページ「Topics」

報スタッフや指定強化クラブ生等によるインスタグラムとの連動が見られ、更なる情報発信の土台が整いつつある。

5. 今後の課題

(1) 更なる学習者中心SDGsの展開と協働

現時点で、多くの社会活動が取り組まれているものの、各学部学科、特にキャンパスごとの活動になりがちであり、キャンパス間の連携協働が難しい状況が続いている。本学園は、建学の精神「究理実践」のもと、教育方針「学習者中心の教育」及び「対人援助力の育成」を教職員及び学生間で共有する。ここにSDGsをキーワードとして、学生がさらに力を試し伸ばすことができる活動の場を広げ、教職員がそれを支援することができる体制づくりが望まれる。包括連携協定を結ぶ地域社会の皆様とのニーズと照らし合わせながら、学生が主体となり、かつ「三方よし」(学生、教職員、

地域社会) につながる社会連携の推進が期待される。

(2) 対外的な情報発信の拡大

現代において、情報発信の中心はインターネットとくにSNSである。学生が行ったSDGs活動を外部に発信し、学外からの反響の中で特に肯定的なものを学生にフィードバックし、持続性と循環を生み出すことが望ましいと考える。はじめの一步を踏み出すことに躊躇がある学生の存在が推察されることから、学生の社会貢献活動ないしSDGs活動へのアクセシビリティの向上と、効果的で迅速な情報発信を組織的に推進することが期待される。

6. 結論

本資料では、過去3カ年にわたる広島文化学園のSDGs推進の内容について整理を行った。これ

まで実施してきたSDGs活動に成果が見られる一方で、対外的な発信には課題が残る。引き続き、課題としたい。

謝辞

本資料に示されている個々の教育、研究、及び社会貢献活動に尽力している広島文化学園教職員の皆様に敬意を表します。併せて、社会活動等に快く参加・協力してくれている学生諸賢に感謝します。

参考文献

- 1) Barta, S., Belanche, D., Flavián, M., & Terré, M. C. (2023). How implementing the UN sustainable development goals affects customers' perceptions and loyalty. *Journal of Environmental Management*, 331, 117325. <https://doi.org/10.1016/j.jenvman.2023.117325> (2023年12月15日確認)
- 2) Chankseliani, M., & McCowan, T. (2020). Higher education and the sustainable development goals. *Higher Education*, 1-8. <https://doi.org/10.1007/s10734-020-00652-w>. (2023年12月15日確認)
- 3) Crawford, J. (2022). Sustainability in Higher Education during the COVID-19 Pandemic: A Systematic Review. *Sustainability*, 14. <https://doi.org/10.3390/su14031879>. (2023年12月15日確認)
- 4) Heras-Saizarbitoria, I., Urbieto, L., & Boiral, O. (2022). Organizations' engagement with sustainable development goals: From cherry-picking to SDG-washing?. *Corporate Social Responsibility and Environmental Management*, 29(2), 316-328. <https://doi.org/10.1002/csr.2202> (2023年12月15日確認)
- 5) Pacheco, A., Costa, P., Simões, J., & Loureiro, R. (2022). The Interrelationships Between the Sustainable Development Goals and Higher Education Institutions: A Systematic Literature Review. *Journal of Education and Training*. <https://doi.org/10.5296/jet.v10i1.20227>. (2023年12月15日確認)
- 6) The Sustainable Development Solutions Network (SDSN). <https://dashboards.sdindex.org/>
- 7) UNESCO. (2021). Berlin Declaration on Education for Sustainable Development. <https://en.unesco.org/sites/default/files/esdfor2030-berlin-declaration-en.pdf>. (2023年12月15日確認)
- 8) 沖大幹他 (2018) SDGsの基礎, 事業構想大学院大学出版部.
- 9) 学校法人広島文化学園 (2023). 中期経営計画Ⅳ (令和2年度~令和6年度) 令和5年度改訂版.
- 10) 角屋重樹. (2012). 学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究 [最終報告書] (Doctoral dissertation, National Institute for Educational Policy Research). <https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>. (2023年12月15日確認)
- 11) 国際連合広報センター (2019). SDGs(エス・ディー・ジーズ) とは? 17の目標ごとの説明, 事実と数字. https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/ (2023年12月15日確認)
- 12) 外務省, ODA (政府開発援助), ミレニアム開発目標 (MDGs). <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html>. (2023年12月15日確認)
- 13) 樋口耕一 (2020). 社会調査のための計量テキスト分析: 内容分析の継承と発展を目指して第2版. ナカニシヤ出版.
- 14) 文部科学省国際統括官付・日本ユネスコ国内委員会 (2016). ESD (持続可能な開発のための教育) 推進の手引. https://www.mext.go.jp/unesco/004/_icsFiles/afieldfile/2018/07/05/1405507_01_2.pdf. (2023年12月15日確認)
- 15) 山中翔, 河村暁 (2022). ESD (持続可能な開発のための教育) の実践. 広島文化学園SDGs検討プロジェクト会議, 令和3年度第2回会議資料 (11月22日開催)